

第3章 外部評価委員会の講評

1. 土木研究所外部評価委員会の講評

第2章に示した土木研究所外部評価委員会分科会での評価結果とこれに対する土木研究所の対応を踏まえ、平成23年1月31日に土木研究所外部評価委員会を開催し、プロジェクト研究について評価を行った。外部評価委員会における講評は以下の通りである。なお、審議の詳細については本書の巻末参考資料に議事録として示すとおりである。

平成22年度 土木研究所外部評価委員会 全体講評

○平成23年度からスタートするプロジェクト研究について、分科会の評価結果を確認し、承認した。本委員会、分科会の評価、議論を踏まえて進めてほしい。

以下に、評価委員会としての講評を述べる。

【プロジェクト研究の分かり易い提示（アピール）】

・各分野の課題設定にあたり、これまでの研究活動の積み重ねを踏まえ、土研全体としてカバーすべき問題点は何だったのか。その中で、これまでの技術はどこまでできていて、今後5年間でどれだけ達成するのか、またこれまでの技術とどう融合するのかの説明が必要である。

・「持続性」という視点で、課題が抽出されていると認識されるが、持続性に対する脅威（地球温暖化、資源枯渇、生物多様性の喪失、環境負荷など）に対し、どう対応するかという視点をしっかり踏まえて、プロジェクト研究の全体構成を説明する必要がある。

【プロジェクト研究のマネジメント】

・目標を達成するためには、分野間やプロジェクト研究間の連携が重要である。また、他の機関（国総研、大学、民間など）との連携についても、目標を達成するためにどのような連携が図られ、効果が発揮されているのか、アウトカムがどれだけ達成されているかを定量化するなどしてしっかり説明して頂き、本委員会でも議論していきたい。

・個別課題の設定にあたって、これまでの多くの個別技術の開発、要素技術の開発がベースになっているのも分かるが、もう少し、目標や目的からのトップダウン的な発想があっても良いのではないかと。そのためにも次回以降、各分科会ごとの説明でなく、全体でどんな連携が図られたのか説明することが重要である。

・国際化については、きちんとした戦略を持って対応する必要がある。例えば、規格や基準について日本がリードしていく、発展途上国の支援を行う、先端技術を日本から発信する、とい

ったそれぞれの場面で戦略は変わってくるはずである。

【プロジェクト研究の広がり】

・土木研究所が、国だけでなく、地方公共団体、民間という組織の枠を超えて技術をリードし、国土整備についてどう技術的にサポートするのかを明確にしてほしい。例えば、下水道のストックマネジメントの問題なども念頭に置いて、管轄の違いを超えて、データベースを土木研究所で積極的に作成するようなことをしてほしい。

・グリーンインフラと自然共生の分野については、地域で発生してくる問題点を総合化するという新しいスタンスの芽が出ており、この地域モデルの考え方をどういう風に進めていくのか、今後に向けて検討してほしい。

2. 土木研究所の対応

土木研究所外部評価委員会において了解された分科会評価結果とこれに対する土木研究所の対応、および外部評価委員会からの講評をもとに、今後提案した実施計画に従って鋭意研究を進め、実施計画書に掲げた達成目標の実現を目指していきたい。